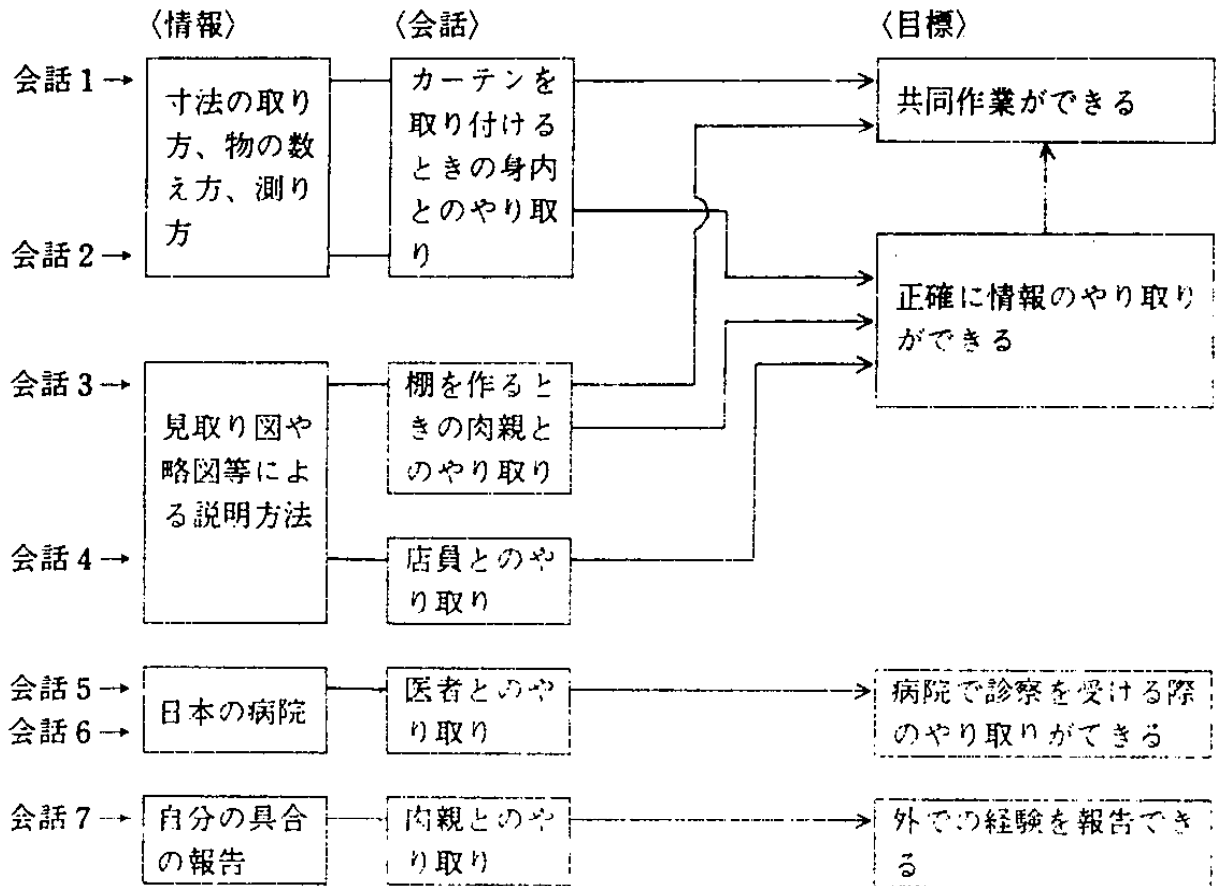


第9課 日曜大工

● この課の目標と重点

- ① 同居する肉親や身近な人々と協力・協調して、様々な仕事や作業ができる。
- ② 共同作業の際に指示の確認をしたり、意見を述べたりすることができる。
- ③ 病院で診察を受けたことなど、一般に家庭外で経験したことを身近な人に話したり、報告したりすることができる。
- ④ 日本の病院や医院のシステムが分かる。

● この課の構成と各会話の関連



【会話－1】カーテンをつける（1）

行動達成目標	
日本の肉親と協力してカーテンを付けるため、寸法が測れる。	
知識	寸法の取り方を理解する。
表	① 日本の寸法の言い方で、寸法が分かる。 → ええと、ここは <u>一間半</u> で下までだから、幅が <u>300センチ</u> で丈が……。 (ベランダ側)は幅が(300)で丈が(180)。 幅(200)で丈が(120)かしら、(150)かしら。
現	② 共同作業をするときのやり取りができる。 → ちょっと(待つ)てください。 ちょっと(測っ)てみます。 (120センチでいい)みたいですわね。

● 指導の前に

学習者にとって金額、重さ、長さ等の言い方は、日常生活で必ず使わなければならないものであり、重要学習項目である。この課では、寸法を測る活動の中での的確に数字が聞き取れ、また言えるように練習したい。

役割分担をして共同作業するとき、日本語での指示のやり取りを理解してスムーズに作業ができるように練習したい。

● 準備

- ① 数字の聞き取りテープを作っておく。テープは数字だけを録音したものより、次のような会話で提出した方がよい。また、会話の場面は、いろいろなものを用意し、なるべくたくさん作っておきたい。事前に宿題として、それぞれの会話場面で数字部分を書き込む用紙（「幅 _____ センチ、丈 _____ センチ」等）と一緒に渡し、よく聞いて記入しておくように指示する。

例 A： ちょっと寸法を測ってみます。

B： はい。

A： 幅は325センチで、丈は200センチです。

B： 幅、325で、丈、200ですわね。

A: はい。

- ② 導入で使う巻尺を何本か用意しておく。
- ③ 【3】の作業用の大きなダンボール箱とそれにはるいろいろな種類の包装紙、それにはさみ、定規、のり等を用意しておく。

● 授業

【1】導入

- ① 数字を含んだ文の聞き取り練習をする

宿題で出したテープの会話と同様の会話を聞かせてその中の数字部分を書き取らせるテストをする。

- ② 寸法を測る

学習者に巻尺を持たせて、教室のいろいろなものを測らせて、寸法を言わせたり、教授者が測ったものをメモさせるなどする。

*このとき、書き込み用紙を学習者のそれぞれに渡しておくといよい。書き込み用紙には「幅」「丈」等のほか「高さ」「長さ」「奥行き」等の測るべき所を示す語を記入しておき、これらの語の定着も目指す。

【2】展開

- ① 会話の内容理解の確認をする

【会話-1】のテープを聞かせて質問をする。

例 ・だれとだれが話していますか。

・二人は何をしていますか。

・カーテンを付ける窓は幾つですか。

・二つの窓に同じ大きさのカーテンを付けますか。

- ② 寸法の言い方・聞き取りの練習をする

次のア、イの順で行うとよい。

ア 「～は幅が～センチで、丈が～センチです」の文型を暗記して、スムーズに言えるようになるまでリピート練習をする。

イ 教授者が、いろいろな寸法を言って学習者にメモさせる。その後、今度はメモしたものを発表する。

③ 共同作業のときの表現の練習をする

次のア～ウの順で行うとよい。

ア 「ちょっと待ってください」「ちょっと持ってください」「ちょっと測ってください」「ちょっと測ってみます」を暗記して、スムーズに言えるまでリピート練習をする。

*表現の意味がよく分からない学習者がいる場合には、中国語訳を書いたフラッシュカードを用意し、時々手掛かりとして見せながら練習してもよい。

イ 協力して寸法を測る。

学習者と教授者が一緒に教室内部のいろいろな部分の寸法を測る。次の例のように、アで練習した表現が使えるように場面を工夫して、練習する。

例 (先生: (メモの準備ができていない学生に向かって) ここは幅が200で、丈が120。それから、こちらは幅が300で、丈が150。
 (学生: ちょっと待ってください。(メモを準備する。))
 (先生: ここは幅200で、丈が120。そちらは?
 (学生: あ、ちょっと測ってみます。))

ウ 共同作業するときの表現を練習する。

「120センチでいいみたいですね」「小さいみたいですね」「大きいみたいですね」「長いみたいですね」「ちょうどいいみたいですね」「これでいいみたいですね」「短いみたいですね」「60センチでいいみたいですね」などの「～みたいですね」の文型がスムーズに言えるようになるまでリピート練習をする。

*レベル1の学習者は「いいです」「短いです」「長いです」が適当に言えればよい。

【3】総合

① [会話-1]の応用会話を作業を通じて行う

準備したダンボール箱に紙をはり、教室で使う物入れを作るという設定で、教授者と学習者全員で共同作業をする。はり付ける紙の長さを決めたり、それを合わせて切ったりしながら、[会話-1]の応用練習をする。

*どんな色の紙を選ぶか、どんな形に切ってはるかなどは、なるべく学習者から意見を出させて、学習者の自主的な作業の形をとって楽しく行いたい。

*これ以外の作業でもよいが、学習者を主体とした作業にしたい。

[会話-2] カーテンをつける (2)

<p>行動達成目標</p> <p>① 日本の肉親や周りの人々に助言を求めることができる。</p> <p>② 確認の表現を使って、正確に相手の言うことを理解する。</p>	
知識	[会話-1] と同じ。
表現	<p>① 助言を求める表現ができる。 → (カーテン) は (一枚ずつ) でいいでしょうか。</p>
	<p>② 助言の内容が理解できる。 → (ベランダ側) は (二重) の方がいい (わね)。 (ああ、150センチ幅のを二枚) の方が (開け閉め) が (楽) ですよ。</p>
	<p>③ 確認の表現ができる。 → そうすると (幅300のが2枚) ですね。</p>

● 指導の前に

共同作業をするときには、相手の指示や助言を正確に聞き取らなければならない。学習者には、一応自分が理解できたと思っても常に相手に確認をしながら、作業を進める習慣をつけさせたい。

それによって、作業がスムーズに運び、共同作業が楽しいものになるはずである。

● 準備

- ① 洗剤、石けん、トイレットペーパー等それぞれ四五個ずつ用意する。
- ② 値段の違う切手等をそれぞれ四五枚ずつ用意する。ともに絵カードでもよい。

● 授業

【1】 導入

- ① [会話-2] の語彙・表現の導入をする

[会話-2] に出てくるカタカナ言葉を発音練習を兼ねて、意味の導入をする。ダブル、シングル、カーテンレールがどんなものか知っているか聞いてみる。知らないようだったら、実物を見せたり、絵などを使って説明する。

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話－2〕のテープを聞かせて質問をする。

② 助言を求めて、それを理解する練習をする

次のア、イの順に行う。

ア 「カーテンは一枚ずつでいいでしょうか」「ベランダ側は二重の方がいいですよ」「カーテン2枚の方が開け閉めが楽ですよ」を滑らかに言えるようになるまでリピート練習をする。

イ アで練習した文型を使って、次のようなやり取りで練習する。

例 学生： おふろのすのこは、木でいいでしょうか。

先生： プラスチックの方が値段が安いですよ。でも、感じは木の方がいいですね。

学生： そうですか。

* 学習者に身近な話題を選ぶ。また、実際の事実関係に基づいた例文で行う。

④ 確認の表現の練習をする

次のようなロールプレイで、「レースの」「厚いの」の「の」の用法、「～ずつ」の用法を重点に確認の表現の練習をする。

例 先生： (学生A Bを立たせて、いろいろな値段の切手を持っている学生Cに向かって言う) Aさんに60円の切手を2枚と、100円のを3枚あげてください。それから、Bさんに60円の切手を2枚と、100円のを3枚あげてください。

学生： 60円のを2枚ずつと100円のを3枚ずつですね。

先生： はい、そうです。

〔会話－3〕棚を作る

行動達成目標

- ① 何かを頼まれたとき、相手の希望を確かめながら希望に沿って行うことができる。
- ② 自分の意見を控えめに述べるができる。
- ③ 説明をするときに図をかいて相手に適切に理解させることができる。

知識

見取り図、略図等による説明方法を理解する。

表 現	① 相手の希望を確かめる。 → (どういうふうに) しましょうか。
	② 控えめな表現で自分の意見を述べる。 → (ううん、鎖だけじゃ危ない) んじゃないですか。
	③ 図をかいて、説明する。 → (ええと、細い木を) こうやって (縦に二本打ちつけて、それを固定させ) しましょうか。 (上からは鎖でつって、下からは) こういう (形の金具で止めるんです)。

● 指導の前に

場合によっては、言葉だけの説明では通じないことも、図をかきながら説明すればよく通じさせることができる。ここでは、この方法を教えたい。

● 準備

いろいろな棚の写真又は絵を用意しておく。

● 授業

【1】導入

① 人に図をかいて説明する必要な場面を示す

学習者に家の間取りはどうなっているか説明してもらったり、教授者が説明したりする。

こういう活動の中で間取りなどを説明する場合などは、図をかいて説明するのが有効であること、また単に図をかきただけより、言葉による説明を加えたほうがより分かりやすいことに注目させる。

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話-3〕のテープを聞かせて質問をする。

② 相手の希望を確かめる練習をする

次のア～ウの順に行う。

ア 「どういうふうにしましょうか」を暗記して、滑らかに言えるようになるまでリピート練習をする。

イ 「何を買って来ましょうか」「何本買って来ましょうか」等を発話練習する。

ウ 次のような会話でロールプレイをする。

例 先生： 悪いけど、～さん、ビール買って来てくれない。

学生： ええ、いいですよ。何本買って来ましょうか。

③ 控えめな表現で述べる練習をする

次のア、イの順に行う。

ア 「危ない→危ないんじゃないですか」の変換練習を「短い」「小さい」「厚い」「古い」「固い」等についてする。

*控えめな言い方になるようイントネーション、顔の表情等に注意させる。

イ 次のような会話で練習する。

例 先生： (短いひもを見せながら) これはどう?

学生： ええ、ちょっと短いんじゃないですか。

先生： そうね。ちょっと短いね。

④ 図をかいて、説明する練習をする

次のア～ウの順に行う。

ア 会話番号8と10の発話練習をする。

イ 「こうやって打ちつけて」「こうやって鎖でつって」「こういう形の金具で止めて」等棚を付けるとき必要な表現を教授者の後についてリピート練習する。

*テ形で練習させる。

ウ 準備した絵を学生の一人だけに見せて、他の学生にどんな棚を作るか説明させる。

*「～て～て……」と続けて分かるように説明できればよく、完結した文ができなくてもよい。

*これらの練習はレベル1の学習者には行わない。

【3】応用

① 図をかいて説明する練習をする

学生に自分の家の最寄りの駅からの道順を図をかきながら説明させる。

[会話-4] 金物屋で

行動達成目標	
金物屋等で必要な量を指定して、買うことができる。	
知識	金物屋で売っている物を知り、その買い方等を知る。
表	① 用途を言って買う。 → (あの、棚をつる) 鎖が欲しいんですが。
	② 量を指定して買う。 → ええと、(70センチ)を(二本)欲しいんですが、
現	③ 絵をかいて、買いたい品物 → (それから棚を支える) こういう形の(金具が説明できる。 は) ……。

● 準備

- ① 鎖を何種類か用意する。(なければ、ひもでもいい)
- ② 金物屋で売っているいろいろな品物、又は絵カードを用意する。

● 授業

【1】導入

- ① 金物屋等で何か買ったかを話させる
学習者に次のような質問をする。

- 例
- ・最近どんなものを買ったか。
 - ・店員に説明しなければならないような物を買ったことがあるか。
 - ・あるとしたら、どのように説明したか。
 - ・このようなとき、店員に伝えるのに苦労したところなどについて話し合う。

【2】展開

- ① 会話の内容理解の確認をする

[会話-4] のテープを聞いて質問をする。

*店員の発話(会話番号5と7)については、値段と、店員がどちらを勧めているかだけ確認すればよい。

- ② 金物屋で売っている品物の語彙を導入する

「くぎ」「針金」「鎖」等や「ペンチ」「かなづち」「くぎぬき」等の工具、また

「なべ」「バケツ」等の道具など種類別に導入したい。

③ 長さや量を指定して買う練習をする

ア 「70センチを二本ほしいんですが、切ってもらえますか」を滑らかに言えるまでリピート練習する。

イ 次のようなやり取りの型を使ってロールプレイをする。

例 A： 鎖がほしいんですが。

B： はい、どのくらい差し上げましょう。

A： ええと（60）センチを（4）本ほしいんですが、切ってもらえますか。

B： はい。

*（ ）内は適当に変える。レベル1の学習者は、「鎖、ください」や「60センチ4本お願いします」等でもよい。

④ 買いたいものを図など利用して説明する練習をする

練習3-1, 2（教科書P238, 239）を使って練習する。学習者にメモ用紙を渡して「こういう形の」の部分で、必ず図をかいて説明するよう指示する。

【3】総合

① 量を指定した買い物のロールプレイをする

金物屋で鎖と金具を指定された量だけ買うという設定で行う。

【4】応用

① 金物屋の場面練習をする

用意した、金物屋で売っているいろいろな品物を買うように指示して、場面練習をする。

* 数量を言わなければ買えないもの、図にかかなければ買えないようなものを多く練習する。

〔会話-5〕診察を受ける（1）

行動達成目標

- ① 病気になったり、けがをしたりしたとき、適切な対処ができる。
- ② 病院で医者への質問を理解し、原因や症状等を伝えることができる。
- ③ 診療後、次回の来院日の指定を受けられることができる。

知識	日本の病院や医院のシステムや応急処置の方法を知っておく。
表現	① けがの原因を告げる。 → (ここ、ビンで切っちゃっ) たんですが。
	② 次回の来院日を聞いて来る日が分かる。 → この次はいつ来たらいいでしょうか。 (ああ、あしたもう一度) 来てください。

● 指導の前に

病院や薬局の場面は、「生活日本語」の13課、14課で学習したが、実生活で学習者が利用する頻度も高く緊急性のある重要な場面なので、知識、表現ともに十分に学習させておきたい。

できれば、「生活日本語」の13課、14課を復習してこの会話への導入としたい。

● 授業

【1】導入

① 病院の利用について学習者の体験を話させる

日本でけがをしたり、病気になったりしたことがあるか、そのとき、病院に行ったことがあれば、どうやって行ったか、病気の症状や原因をどう説明したか、医師はどんなことを聞いたかなどそのときのことを話し合う。

② 「生活日本語」の13課、14課の簡単な復習をする

【2】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話—5〕のテープを聞いて次のような質問をする。

例 ・林さんはどこにいますか。

・何をしていますか。

・医者は林さんの傷はどうだと言いましたか。

・どれだけ縫うと言いましたか。

・治療する前に医者は林さんに何と言いましたか。

・医者は林さんに薬をくれましたか。

・どんな薬をくれましたか。

・次はいつ来るように言いましたか。

② けがの原因を告げる

次のア、イの順で行う。

ア 教授者が「機械に挟まれたんです」「物が落ちて来たんです」などさまざまな原因を言って、学習者にその原因に合った絵カードを示させる等で練習する。

イ 次のようなやり取りで練習する。

例 先生： どうしたんですか。

学生： 機械に挟まれたんです。

*「どうしたんですか」に対する答えはいままで何回か練習して来ているので、今までやっていないものを教えた。

*絵などで言うべき原因が何であるか示しながら練習させるとよい。

*レベルⅠの学習者は、今までに練習したものの繰り返しでよい。

③ 次回の来院日を決める練習をする

次のア、イの順で行う。

ア 「この次はいつ来たらいいでしょうか」を暗記して、滑らかに言えるまでリピート練習をする。

イ 次の会話の型を使って、ロールプレイをする。

例 A： 先生、次はいつ来たらいいでしょうか。

B： ああ、(来週の月曜日)にもう一度来てください。

A： (12月3日)ですね。(と言いながら手帳に書き留める。)

*学習者に手帳の代わりとなる紙を持たせて練習する。

*レベルⅢの学習者には、次のような会話の型を使って、初めに指定された日は都合が悪い場合をロールプレイする。

例 A： 先生、次はいつ来たらいいでしょうか。

B： ああ、(来週の月曜日)にもう一度来てください。

A： あ、すいません。その日は(ちょっと都合が悪い)んですけど(来週の火曜日)にお願いできませんでしょうか。

B： ええ、結構ですよ。

[会話-6] 診察を受ける(2)

行動達成目標

- ① 医師にけがや病気の経過を話すことができる。
- ② 次回の来院の必要、不必要が聞ける。
- ③ 診察後、礼を言うことができる。

知識	〔会話－5〕と同じ。	
表 現	① 医師に経過を聞かれて、	→ どうですか、具合は？ 話す。
	② 次回の来院の必要、不必 要を聞いて、分かる。	→ あのう、もう来なくてもいいんでしょうか。 ええ、もういいですよ。
	③ お礼を言う。	→ どうもありがとうございました。

● 指導の前に

礼やあいさつの言葉は、場面を離れて練習したのでは、なかなか身につかない。日本では、礼を言うのが当然と考えられる場面でも、中国の社会では普通言葉として礼を言わないことがありうる。教授者は単に言葉として礼を教えるのではなく、むしろ礼を言うべき場면을指摘することが大切である。

● 準備

包帯を用意しておく。

● 授業

【1】展開

① 会話の内容理解の確認をする

〔会話－6〕のテープを聞かせ質問をする。

- 例
- この病院へ来るのは初めてですか。
 - けがの具合はどうですか。
 - この病院へまた来ますか。
 - 林さんは診察が終わった後、何と言いましたか。

② 〔会話－6〕のロールプレイをする

次のア～エの順で行う。

ア 「もう来なくてもいいんでしょうか」が滑らかに言えるまでリピート練習をする。

イ 練習1－1（教科書P242, 243）に沿って変換練習をする。

ウ 次の会話の型を使って場面練習をする。

例 A： （来なく）てもいいんでしょうか。

B： ええ、いいと思いますよ。

*練習1-1 (教科書P 242, 243) の表現を使って練習する。

エ [会話-6] を通してロールプレイする。

*礼を言うときの身振りや態度に注意させ、「どうもありがとうございました」がタイミングよく言えるようにする。

[会話-7] 報告

行動達成目標	
病院での診察の結果がどうであったか報告できる。	
知識	自分のけがなどの状況を身内に説明することの必要性を理解する。
表現	医師の言葉を伝聞の表現を使って、 → (もう来なくていい) って。伝えられる。

● 指導の前に

学習者の周囲には心配してくれている人々がいる。その人たちに自分の状況をきちんと報告できるよう練習したい。

● 準備

【2】①で練習するとき、協力してもらう人を探し、何をしてもらいたいか伝えておく。

● 授業

【1】展開

① 会話の内容理解を確認する

[会話-7] のテープを聞かせて質問する。

② 伝聞の表現を練習する

次のア～ウの順で行う。

ア 「もう来なくていいって」「もう一度だって」の意味を説明2 (教科書P 244) を読ませて確認し、滑らかに言えるようになるまでリピート練習する。

*伝聞の表現は今までに何度か練習しているのでスムーズに言えるように練習するだけでよい。

イ 練習2-1 (教科書P244) をロールプレイする。

ウ 練習2-2 (教科書P244) をロールプレイする。

*練習2-1と練習2-2では、話し方の丁寧さに違いがあることを理解させる。

【2】応用

① 報告の練習をする

次のア～ウに沿って行う。

ア 次の会話の型を使い、まず教授者と学習者とのロールプレイをする。

例 先生： ～さん、事務室に行って、(ペンチ)を持って来てください。

学生： はい。

(隣の部屋へ行って帰ってくる。)

学生： (ペンチ)は、ないそうです。

先生： あ、そうですか。どうもありがとうございます。

イ 別の部屋に協力者にいてもらい、学習者が来たら、「(ペンチ)はない」と返事をしてもらうように伝えておき、その部屋へ学習者に物を取りに行かせ、報告の練習をする。「ペンチ」は学習者によって別の道具等に変えて行う。

ウ イと同様にして、次の会話の型を使い学習者同士で練習する。

例 学習者Aは学習者Bにペンチを取りに行かせる。

学生A： Bさん、事務室へ行って、(ペンチ)を持って来て。

学生B： はい。

(行って帰ってくる。)

学生B： (ペンチ)はないって。

学生A： あ、そう。どうもありがとうございます。